

評価規準の作成 外国語

中学部外国語科内容(3)①「ウ 話すこと」を取り上げて

【参考資料】

- ◆「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)」⇒★

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/nc/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415196_4_1_2.pdf



(小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)

平成31年3月29日 別紙4)

- ◆「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料(令和2年4月)」⇒☆

https://www.mext.go.jp/content/20200515-mxt_tokubetu01-1386427.pdf



※「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」等からの引用文の一部を
斜体・太字・赤字で強調して示している部分は、山形県教育センターによるものです。

中学部外国語科内容(3)①「ウ 話すこと」

小学部【外国語活動】目標		中学部【外国語】目標	高等部【外国語】目標	
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
観 点	—	—	1段階	2段階
知識及び技能	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。
	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
思考力・判断力・表現力等			イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似ながら読んだり、外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに向かう力・人間性等	(3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
			ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

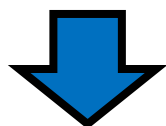
中学部外国語科内容(3)①「ウ 話すこと」

内容	小学部（外国語活動）	中学部（外国語）
思考力・判断力、 表現力等	① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。	① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。
	ア 聞くこと (7) 既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。	ア 聞くこと (7) 文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動。
	(4) 既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。	(4) 身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。
	—	(9) 挨拶や簡単な指示に応じる活動。
	イ 話すこと (7) 既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。	イ 話すこと〔発表〕 (7) 自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。
	(4) 既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。	(4) 身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。
	—	ウ 話すこと〔やり取り〕 (7) 簡単な挨拶をし合う活動。
	—	(4) 自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。
	—	(9) ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。
	—	エ 書くこと (7) 身近な事物を表す文字を書く活動。
	—	(4) 例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。
		オ 読むこと (4) 身の回りや身近な生活に関する文章や短文を読み、その内容を理解する活動。

評価規準の作成手順

1 「評価の観点及びその趣旨」(★参照)の確認

※ 各教科等の目標を踏まえて作成されている



2 ~~「段階別の評価の観点の趣旨」(☆参照)の確認~~

※ **他教科は**段階の目標を踏まえて作成されている**が、**
中学部の外国語科には段階がない



3 「内容のまとまりごとの評価規準」の作成

- ① 各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する

評価規準の作成手順 1

～評価の観点及びその趣旨の確認～

外国語の目標		評価の観点及びその趣旨	
知識及び技能	外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や本的な表現に 慣れ親しむようにする。	知識・技能	外国語を用いた体験的な活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に 慣れ親しんでいる。
思考力・判断力・表現力等	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを 伝え合う力の素地を養う。	思考・判断・表現	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを 伝え合っている。
学びに向かう力・人間性等	外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを 図ろうとする態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度	外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを 図ろうとしている。

評価規準の作成手順 3

～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

①「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係の確認

2 内容〔英語〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴等に関する事項

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

(2) 情報を整理し, 表現したり, 伝え合ったりすることに関する事項

(3) 言語活動 言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ア 聞くこと
イ 話すこと〔発表〕
ウ 話すこと〔やり取り〕
エ 書くこと
オ 読むこと

② 言語の働きに関する事項

「英語」における内容のまとまりとは,

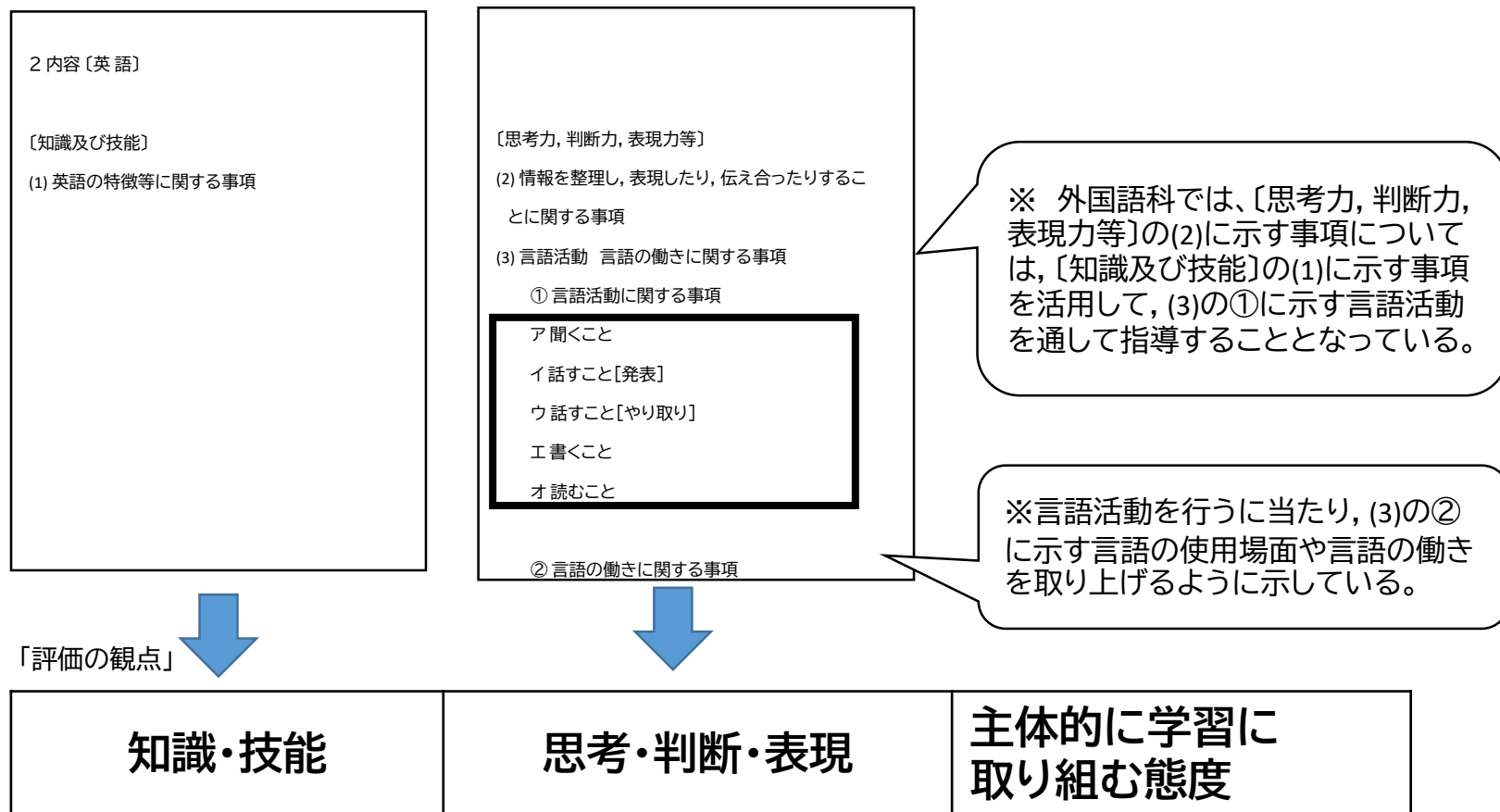
5つの領域のこと

※ 「内容のまとまり」は、太線の枠囲み部分となる。

評価規準の作成手順 3

～「内容のまとめりごとの評価規準」の作成～

①「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係の確認



つまり、〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応している。

評価規準の作成手順 3

～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、
「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「知識・技能」のポイント

- ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～**している。**」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。

評価規準の作成手順 3

～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「思考・判断・表現」のポイント

- 基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その**文末を「～している。」**として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
- 評価規準の冒頭には、当該単元で指導する領域を**「(領域名を入れる)」に
おいて、**と明記する。

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとめりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と，②①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
文末は「～しようとしている。」とする。「評価の観点及びその趣旨」においては，主として，①に関しては「外国語やその背景にある文化の多様性を知り」，②に関しては「相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている」が対応する。①，②を踏まえ，当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【内容のまとまりごとの評価規準(例)内容(3)①「ウ 話すこと」】

(イ)自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動に係る評価規準の例

内 容		内容のまとまりごとの評価規準	
知識・技能及び	ア(ウ) 基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを 感じ取ること。	知識・技能	基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを 感じ取っている。
思考力・判断力・表現力等	イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に 答えたりすること。	思考・判断・表現	「話すこと」において 、日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に 答えたりしている。
学びに向かう力・人間性等	外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を 知り 、相手に配慮 しながら コミュニケーションを 図ろうとする態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度	外国語を 知り 、相手に配慮 しながら コミュニケーションを 図ろうとしている。